埼玉アーツシアター通信

2017 9月-10月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.71

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

マームとジプシー
『IL MIO TEMPO―わたしの時間―』

ジェローム・ベル
『Gala―ガラ』

ケイト・リウ

レオニダス・カヴァコス

工藤重典

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK―ラスト・ワーク』

Batsheva Dance Company / Ohad Naharin "LAST WORK"

埼玉アーツシアター通信

2017 9月-10月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.71

CONTENTS

03 〈PLAY〉 血と肉を通した、さらに濃密なシェイクスピアを!
彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』
吉田鋼太郎 Interview

06 〈PLAY〉 蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

07 〈PLAY〉 違う人同士は、繋がることができるのか
マームとジプシー『IL MIO TEMPO−わたしの時間−』

08 〈DANCE〉 バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK−ラスト・ワーク』
オハッド・ナハリン Interview

10 〈DANCE〉 多様性がキラキラとリアルに息づく
ジェローム・ベル『Gala−ガラ』

12 〈MUSIC〉 “ショパンの国”が認めた若きピアニストと分かち合う音楽
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.32
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル

14 〈MUSIC〉 ニューヨーク、ウィーン、アムステルダム——世界が今一番求めているヴァイオリニスト
レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル

16 〈MUSIC〉 音楽には、もっと追求しがいのある奥深さがある
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 Interview

18 REVIEW

20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 〈COLUMN〉岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

［表紙］バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン『LAST WORK−ラスト・ワーク』 Photo◎Gadi Dagon
編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.Sep.2017 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2017年8月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

吉田鋼太郎
Interview

血と肉を通した、さらに濃密なシェイクスピアを！

文◉市川安紀（演劇ライター）

発売日　一般 10.14（土）　メンバーズ 10.9（月・祝）

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

12.15（金）～29（金） 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

［作］W.シェイクスピア　［翻訳］松岡和子
［演出］吉田鋼太郎
［出演］吉田鋼太郎、藤原竜也、柿澤勇人、横田栄司、
大石継太、間宮啓行、谷田 歩、河内大和 ほか

チケット（税込）　一般 S席9,500円　A席7,500円　B席5,500円
U-25*（B席対象）2,000円／メンバーズ S席8,600円　A席6,800円　B席5,000円

※メンバーズには別途ご案内するプレオーダー（抽選）があります。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※関連プログラムあり（要事前申込）　☞ 詳細はP.23

12.	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土祝	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	29 金
13:30	●	★	★	休	●	●	●	●	●	★	休	●	●	●	●
18:30	●	★		演	●			●			演	●		●	

★…さいたまアーツ・シアターライヴ!! 実施予定（開場20分前から30分間）@情報プラザ

突き抜けた“負”のパワー

――彩の国シェイクスピア・シリーズ2代目芸術監督としていよいよ始動です。上演機会が滅多にない異色作ですが、過去にご自身も出演されていますね。

戯曲で読んだ以上にやってみたら面白かったし、評判もよかったんですよ。でも蜷川さんが『ハムレット』に何回も挑戦したように、シェイクスピアは一回やっただけでは汲み尽くせないんです。

これは前半と後半ではまったく様子が違う芝居で、前半はタイモンの没落劇、後半は完全に論争劇。その論争も結論は出ずじまいで、虚しい会話に終わってしまう。起承転結もうまく出来ているわけじゃないんですが、逆にそこが不思議な味わいの面白さなんですよね。

内容的には現代社会に置き換えても理解しやすいと思います。要するに金持ちが金を使い過ぎて倒産して逃げました、と。普通は地方ででもホソボソと働くところですけど、タイモンは普通の人が行かない場所、“森”に行くというのが面白い。格差社会と言われる今、お金を持つ人がいつ転落するかもわからないですからね。自分が困った時に本当に助けてくれる人がいるのかとか、考えさせられることの多い芝居です。ただ、ある一面にスポットを当てるのではなく、晩年の蜷川さんのようにシェイスクピアの戯曲に忠実に演じることで、自ずと何かが見えてくるだろうと思っています。

――タイモンを取り巻く登場人物たちも魅力的ですね。

それぞれの考え方と生き方を持つタイモン、アペマンタス、アルシバイアディーズ、フレヴィアスの４人が大変面白く描かれていますね。タイモンと論争するひねくれ哲学者のアペマンタスは、『リア王』で言えば道化の役どころ。でもアペマンタスは道化の役割を果たせない。没落したタイモンは心まで荒み果てて、アペマンタスの言葉も虚しく宙に消えるだけ。タイモンほど社会、人間、未来の全てに対して期待していない人物も珍しいですね。普通は社会生活の中で言いたいことを飲み込んだり、何かを犠牲にするものだけど、タイモンはそうした我慢を一切やめてしまう。人間が心の片隅に持っている“負”のパワーを全部出すから、ある種の爽快さも感じますよ。

――そういう役は演じる側としても気持ちがいいものですか。

気持ちいいですね。耳を塞ぎたくなるような呪いの言葉をタイモンが延々と吐くんですが、僕も夫婦喧嘩の時に言いたくなりますもん。もちろん言えないけど（笑）。彼に共感できる人もけっこういると思います。逆に「ああはなるまい」と反面教師にする人もいるだろうし。身近な部分と、現実からかけ離れた部分と、極端な振り幅も見どころかな。いずれにせよ、型にはまったウェルメイドな芝居ではないので、ほかでは味わえない観劇体験ができると思いますね。

帰ってきた蜷川カンパニー

――彩の国シェイクスピア・シリーズ2代目芸術監督として蜷川さんから引き継ぐ面と、鋼太郎さんなりの独自色と、そのバランスはどのように考えていますか。

晩年の蜷川さんは本当に言葉を大事になさっていました。シェイクスピアは朗誦（ろうしょう）だけではなく自分の血と肉を通した声でしゃべらないと意味がない。それを最終的に達成できなかったのが残念だ、とおっしゃって。そこはぜひバトンを引き継ぎたいですね。蜷川さんが創りあげられたダイナミズムと、シェイクスピアの欲望の深さを出すこと、そこに加えて相手との関係性から生まれるものを大事にできれば、さらに濃密なシェイクスピアになると思います。そこは稽古でしか創っていけない部分ですけれど。

――ビジュアルのプランなどは？

前半と後半の違いを、ビジュアルでも分かりやすく出したいですね。前半は栄華を極めたタイモン邸とその周辺、後半はいきなり、森。衣裳も含めて、「ああ、蜷川カンパニーが帰ってきた」と感じてもらえるビジュアルになると思います。その方がお客さんにも喜んでもらえると思うので。

――それは何だか嬉しいです。稽古が始まるのも楽しみですね。

シェイクスピアに関してはずいぶん（演出も）やってきたのでそんなに大変ではないですけど、何しろ蜷川さんから受け継いだカンパニーを演出するのが初めてなので、みんな言うこと聞いてくれなかったらどうしよう、と不安でしょうがない（笑）。

――そこはぜひ乗り越えていただいて（笑）、後に続く４作に繋げていただければと。

そうですね。『タイモン』を含めて、残っているのは地味だけど実は面白い作品ばかりなんです。おそらくここで観ておかないと一生損すると思います（笑）。まずは『タイモン』をいい舞台にしたいですね。

吉田鋼太郎
Kotaro Yoshida

東京都出身。1997年に劇団AUNを旗揚げ。演出も手がける。蜷川幸雄演出のシェイクスピア劇に多数出演。第6回読売演劇大賞（1999年）、第36回紀伊国屋演劇賞個人賞（2001年）、芸術選奨文部科学大臣賞演劇部門（2014年）受賞。昨年「彩の国シェイクスピア・シリーズ」2代目芸術監督に就任。主な出演作に、舞台『タイタス・アンドロニカス』『オセロー』『アントニーとクレオパトラ』『ヘンリー四世』、映画『帝一の國』『アンフェアthe end』『THE NEXT GENERATION パトレイバー』『新宿スワン』、ドラマ『花子とアン』『MOZU』『東京センチメンタル』『刑事7人』『真田丸』など。

THE LIFE OF TIMON OF ATHENS

Photo◎渡部孝弘

『ムサシ』
蜷川幸雄 三回忌追悼公演

文◉川添史子

2018年春、『ムサシ』が蜷川幸雄の三回忌追悼公演として再演される。同作は吉川英治の小説『宮本武蔵』を原作に井上ひさしが脚本を書き下ろし、2009年に蜷川演出・藤原竜也主演により初演。以降、2010年、2013年、2014年に上演されてきた。これまでにロンドン、ニューヨークをはじめ、5カ国9都市を巡り、約17万人を動員している。

今回は初演同様、武蔵役を藤原竜也、小次郎役を2013年、2014年に引き続き溝端淳平が演じる。共演者には鈴木杏、六平直政、吉田鋼太郎、白石加代子らが名を連ね、2014年の上演時に藤原が劇中の武蔵と同じ35歳になったらもう1度『ムサシ』を上演しようと蜷川と約束したというメンバーが再集結した。

描かれるのは、宮本武蔵と佐々木小次郎による「巌流島の決闘」の後日談。鎌倉の寺を舞台に、武蔵が造営を手掛けた禅寺の寺開きに、大徳寺の長老・沢庵、柳生宗矩（むねのり）、寺の後援者である乙女とまいが集まっている。そこへ復讐心に燃えた小次郎が現れ、武蔵に再戦を挑む。〈小次郎は死んでいなかった〉という大胆解釈で剣豪同士の果たし合いをモチーフにしながら、争いの無意味さ、生きる美しさを描いた傑作だ。井上戯曲らしい、喜劇要素もたっぷりと楽しめる。

井上は1934年生まれ、蜷川は1935年生まれ。意外だが、同年代ながらも蜷川が初めて井上戯曲を手掛けたのは2005年に上演された『天保十二年のシェイクスピア』から。同時代を生きながらも、70代でようやく出会った二人だが、その後、『藪原検校』『道元の冒険』『表裏源内蛙合戦』『たいこどんどん』『しみじみ日本・乃木大将』『日の浦姫物語』と立て続けに蜷川演出で初期の傑作が新たな命を吹き込まれた。そんな中、唯一の書き下ろしがこの『ムサシ』だった。

ロンドン・ニューヨークツアーの直前に世を去った井上。カーテンコールで拍手にこたえる蜷川の手には、航空券も準備していたという井上の写真があったと聞く。〈報復の連鎖をどう食い止めるのか〉という人類に残された課題を編み込んだ今作が、井上も蜷川も亡き後、どう立ち上がるのかに注目と期待が高まる。同作は中国本土での公演も予定。

発売日　一般 11.18（土）　メンバーズ 11.3（金・祝）

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

2018年**3.3（土）～11（日）**
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

［作］井上ひさし（吉川英治「宮本武蔵」より）
［演出］蜷川幸雄
［音楽］宮川彬良
［出演］藤原竜也、溝端淳平、鈴木 杏、
六平直政、吉田鋼太郎、白石加代子
大石継太、塚本幸男、飯田邦博、堀 文明、井面猛志

チケット（税込） 一般 S席10,500円　A席8,500円
U-25（25歳以下対象・前売のみ取扱・当日引換券・要証明書）5,000円

※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。

3.	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00	●							●	●
13:30			休	●	●	●	●		
18:00	●		演					●	
18:30				●					

藤田貴大という演劇作家は、個人的な記憶を繰り返し描いてきた。岸田國士戯曲賞を受賞した『かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』もまた、彼が18歳まで過ごした北海道の伊達という町を舞台とする作品だ。だが、ここ数年、藤田の描く作品は普遍的な広がりを持ちつつある。それを象徴する作品の一つが、10月にNINAGAWA STUDIOで上演される『IL MIO TEMPO』だ。

この作品はいかにして生まれたのか。その背景を探るには、2013年春にまで遡る必要がある。

マームとジプシーが初めて海外公演を行ったのは2013年、『てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなった、世界。および、ひかりについて。』という作品を上演した時のこと。公演が終わったあと、彼らを招聘したフェスティバルディレクターは「イタリアで作品を作ってみないか」と提案する。その翌年、マームとジプシーは再びイタリアを訪れ、4都市をツアーする。作品の上演だけでなく、ワークショップも開催した。そこで出会った4人のイタリア人俳優と、マームとジプシーの作品によく出演する4人の日本人俳優が、『IL MIO TEMPO』に出演する。

その創作は2015年秋、イタリア中部に位置するポンテデーラという小さな町で幕を開けた。2週間という非常に短い滞在制作である。それにもかかわらず、藤田は自身の想像する物語を俳優に託すのではなく、俳優にインタビューするところから作業を始めた。そこで俳優から得た回答をもとに『IL MIO TEMPO』は構成されているのだが、藤田は俳優に台詞を与えることに慎重だった。稽古に取りかかる前には皆で散歩に出かけ、一緒に料理をして食卓を囲む。稽古と同等かそれ以上に、藤田は“共に時間を過ごすこと”に注意を払っていた。それは、去年の秋にイタリア人俳優を日本に招聘し、ワーク・イン・プログレスとして『IL MIO TEMPO』を発表する時にも共通して言えることだ。

2015年にポンテデーラで滞在制作した時、藤田は「生まれた国も違うし、言葉も違うし、見てきたものも口にしてきたものも違う人同士が、どうすれば繋がることができるのか」と語っていた。世界が分断の時代を迎えつつある今、繋がることなんて不可能かもしれないけれど、それでも微かなヒカリを探して彼らは時間を過ごしてきた。『IL MIO TEMPO』という作品には、そんなわたしの、わたしたちの時間が詰まっている。

違う人同士は、繋がることができるのか

マームとジプシー『IL MIO TEMPO－わたしの時間－』

文◉橋本倫史　Photo◉三田村 亮

発売日　一般・メンバーズ 9.24（日）

マームとジプシー『IL MIO TEMPO－わたしの時間－』

10.17（火）～22（日）
彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO（大稽古場）

［作・演出］藤田貴大
［出演］荻原 綾、川崎ゆり子、成田亜佑美、波佐谷 聡
Andrea Falcone、Giacomo Bogani、Sara Fallani、Camilla Bonacchi
［主催］合同会社マームとジプシー　［提携］彩の国さいたま芸術劇場
チケット（税込） 全席自由（整理番号付） 一般・メンバーズ 3,500円

※開場は開演の20分前です。※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。
※開場時間を過ぎますと整理番号は無効となります。
※本公演は特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。予めご了承ください。

10.	17	18	19	20	21	22
	火	水	木	金	土	日
14:00				●	●	
19:30	●	●	●		●	

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK－ラスト・ワーク』
オハッド・ナハリン
Interview

野性味ある躍動と、繊細な詩情。
パワフルな動きを強靭な肉体で表現する個性的なダンサーたち。
世界のダンスシーンで最も注目を集めるイスラエルのカンパニー、
バットシェバ舞踊団が、日本初公開の作品
『LAST WORK』を携えて来日する。
舞踊団の芸術監督であり、同作の演出・振付家でもある
オハッド・ナハリンに、自らのクリエイション、ダンスへの思いについて聞く。

取材・文◉上野房子（舞踊評論家）　Photo◉Gadi Dagon

オハッド・ナハリン
Ohad Naharin

1952年生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、渡米しマーサ・グラハム舞踊団に入団。ジュリアード音楽院でも学ぶ。1980年に振付家としてデビュー。1990年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任、『キール』（1990年）、『マブール（洪水）』（1992年）、『アナフェイズ（細胞分裂）』（1993年）など次々に話題作を発表。彼の作品はネザーランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団、パリ・オペラ座バレエ団など、世界中の著名なダンスカンパニーやバレエ団で踊られており、現在、世界でもっとも注目される振付家の一人。

バットシェバ舞踊団
Batsheva Dance Company

イスラエルを代表する世界的な現代ダンス・カンパニー。1964年に創立。現在は世界各地で年間約250公演を行い、観客数は毎年およそ100,000人に及ぶ。1990年以降、ダンサーたちはナハリンが考案した動きのテクニックである「GAGA（ガガ）」の日常的なトレーニングを通じてムーヴメントの新たな可能性を探し、ダイナミックな感性を知覚していく。1989年以降、テルアビブのスザンヌ・デラル・センターを本拠地としている。

ダンサーが幾度も衣裳を着替え、帰属を変えていく情景を見ながら脳裏に浮かんだのは、黒い帽子とスーツ姿のダンサーに誘われた観客がひととき舞台で踊る、ナハリン作品でお馴染みのあの演出。筆者はこの場面に“出演”したことがあるのだが、客席に戻った途端、どのダンサーがパートナーだったのか判別できなくなった。「やれやれ、君は衣裳に気を取られて、目の前にいる彼を見ていなかったとは」。ナハリンの少しハスキーな声が聞こえたような気がした。

何が、その人をその人たらしめるのか。創作を通して人間の有り様を見つめてきたナハリンは、こう語る。

「知性、寛容さ、不安感、野心、自分自身を笑い飛ばせる能力、物事を俯瞰する眼力、想像力、愛情を注ぐ能力といった事項を挙げよう。とりわけ重要なのは、普遍的な倫理観を自分のものにすることだ」

寛容さが横溢しているとは言いがたい今、これまでの世界では想像すらできなかった形状の剣が数限りなく生み出され、想像を絶する方法で振りかざされている。ペンは剣よりも強し、という金言があるが、ダンスは剣よりも強し、と言い得るのだろうか。

「イエス／ノー、では答えることはできない。剣とは敵を攻撃する武器だが、愛する人々を守る手段にもなる。ダンスにも二面性がある。陳腐なほどに保守的になり得る一方、人生のまったく新たな局面を描き出し、癒しや進歩を促すこともできる。過去にとらわれず、新たな文脈のなかで創造することは、その社会の文化を前進させることにつながる。芸術にはそうするだけの力がある、と信じている」

1980年に振付家としてデビュー、1990年以来、バットシェバ舞踊団の芸術監督を務めるナハリンは、40年近くにわたり、文字どおり新たな文脈のなかで創作に邁進してきた。

「自分の頭のなかで、火が燃え盛っているように感じることがある。その火を消し止める唯一の方法は、空想に耽り、振付を考えることだ。とにかく私は動くことが好きなんだ。この気持ちが、振付をする動機の一端となっている。振付とは、自分の技術と情熱と想像力を出し尽くすことだ。おかげで振付をしている最中は、夜、ぐっすり熟睡できる」

ナハリンのダンスへの深い愛情は、独自の動きのテクニック「GAGA」という果実も生み出した。ダンサーの心身を鍛え上げるGAGAダンサーと、あらゆる人に向けたGAGAピープルの二種類がある。時折、彼が自ら指導するワークショップには何百人もの参加者が集い、汗を流すという。

「私たちは誰しも体を持っていて、その体でスピードを感じ、質感を感じ、重力を感じ、刺激を受け止め、ものすごいパワーを振りまく。汗を流し、苦労し、楽しみ、疲労困憊し、時には飽きたりしながら、自分を閉じ込めていた限界から自由になる術を見つけ出す。ほんとうに色々なことができるんだ」

チケット発売中

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK－ラスト・ワーク』
10.28（土）・29（日）開演15:00　彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
［演出・振付］オハッド・ナハリン　［出演］バットシェバ舞踊団
チケット（税込）一般 前売S席6,500円　A席4,000円
U-25* 前売S席3,500円　A席2,000円／メンバーズ 前売S席6,000円　A席3,600円

※当日券は各席種とも+500円　※残席僅少
※販売している一部のお席は舞台が見えづらい場合がございます。予めご了承ください。
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内できない場合がございます。予めご了承ください。
※北九州、愛知、びわ湖公演あり。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

［関連企画］
バットシェバ舞踊団ダンサーによる《GAGAワークショップ》
10.27（金）17:00 GAGAダンサー（振付家、ダンサー向け）
29（日）17:00 GAGAピープル（一般向け、スキル・経験不問）
※ダンサー・ピープルともに、定員に達したため募集は締め切りました。ご了承ください。
会場：彩の国さいたま芸術劇場

8年間にわたってオハッド・ナハリンに長期密着した映画が待望の日本公開決定!
『ミスター・ガガ 心と身体を解き放つダンス』
監督：トメル・ハイマン／2015年／100分／提供：アクシー株式会社

『Mr.Gaga』

ナハリンの振付作品のリハーサルに密着し、貴重な記録映像と息をのむダンスシーンで描かれる話題作。ナハリン独自の世界に肉迫する。サウス・バイ・サウスウエスト映画祭で観客賞、ソフィア国際映画祭では最優秀ドキュメンタリー映画賞を受賞。

【東京】シアター・イメージフォーラム（渋谷）
10.14～ お問合せ：03-5766-0114
http://www.imageforum.co.jp/theatre/
※名古屋、福岡、京都など全国順次公開予定。

Photo©José Frade

多様性がキラキラと リアルに息づく

ジェローム・ベル 『Gala―ガラ』

ダンスに批評的な眼差しを投げかけ続けるジェローム・ベルの『Gala』
埼玉バージョンが、いよいよ来年1月、彩の国さいたま芸術劇場で上演される。
20人のキャストを現地で集め、プロのダンサーと俳優、アマチュアの人々がキャストとなり、
可能な限り多様な人間の身体を表現するという刺激的な作品となりそうだ。

文◉伊達なつめ（演劇ジャーナリスト）

Photo©Bernhard Müller

ジェローム・ベル
Jérôme Bel

パリ在住の国際的に活躍する振付家。ダンスという表現ジャンルに社会的、批評的な眼差しを投げかける独自の作品で知られる。フランス国立現代舞踊センター・アンジェで学んだ後、1985年から1991年までフランスやイタリアで多くの振付家作品にダンサーとして出演。1992年のアルベールビル冬季五輪開・閉会式では演出家フィリップ・ドゥクフレの助手を務める。彩の国さいたま芸術劇場には2011年『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』（2001年初演）で初登場。同作は2005年ニューヨーク公演においてベッシー賞を受賞。その他、パリ・オペラ座バレエやリヨン・オペラ座バレエにも振付。初期作品から現在の最新作に至るまで世界中で上演されており、話題となっている。

発売日　一般 10.28（土）　メンバーズ 10.21（土）

ジェローム・ベル『Gala―ガラ』

2018年1.20（土）・21（日）開演15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

［構想・演出］ジェローム・ベル

チケット（税込）一般 前売S席4,000円　A席3,000円
U-25* 前売S席2,500円　A席1,500円
メンバーズ 前売S席3,600円　A席2,700円

※当日券は各席種とも＋500円
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内できない場合がございます。予めご了承ください。
＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

2015年9月、パリの秋を彩る国際芸術祭「フェスティバル・ドートンヌ」で上演されたジェローム・ベルの『Gala』を観た。会場は、パリ中心から電車で30分強のナンテールという街。ちょうど東京から彩の国さいたま芸術劇場に行くような感覚だ。

彩の国さいたま芸術劇場とジェローム・ベルといえば、2011年の『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』のことが思い浮かぶ。ガランとした舞台に、ずっと音楽が流れ続け、いつまで続くのか不安になってきたころに、まるで客席からそのまま舞台に上がったような（実際にはオーディションで選ばれた）ふだん着姿の老若男女二十数人が現れ、おもむろに踊ったり、踊らなかったりする。以上。たとえそれが、何か高遠な理論の実践なのだとしても、見た目には、一般人が、ただ舞台に立って身体を動かすだけ。卓越したプロのダンサーによる研ぎ澄まされた芸術作品を期待した観客が、怒り出しても無理ないようなことを、悪びれず、ちょっとお茶目にやってのける。個人的には、そんなジェローム・ベルへのイメージが出来上がった作品だった。

『Gala』のオープニングでは、その時の記憶が少なからず甦った。まず舞台上のスクリーンに、さまざまなタイプの舞台と客席の写真が映写される。豪華なオペラハウスから、椅子が数脚置かれた小部屋まで、それはもう、ありとあらゆるその手のものが延々と。それをじっと眺めてベルの思惑を察しながら、ジリジリと待たされる時間だ。しばらくしてやっと幕があき、何もない舞台に、あらゆる年齢層の、体型も性別も肌の色もさまざまな人たちが現れた。ここまでは、『ザ・ショー・マスト〜』とほぼ同じパターン。でもその後の展開は、格段に違っていた。

自分らしくいられることの自由

舞台下手に寄席みたいな手書きのめくりがあり、そこに「バレエ」と出ると、ひとりずつ下手から登場して中央で止まり、クラシック・バレエの同一のムーブメントをしてみせ、上手袖に入ってゆく。ただただしくポーズを取るお年寄りから、プロのダンサーとわかる人まで。ダンスのジャンルや技術・表現力のレベルが雑多に入り混じった、多くは素人の20人がここにいるということが、これで一目瞭然となる。同じように、めくりのお題は、特定のリズムやスタイルを持つダンスや、「即興」「お辞儀」など型のないものなどいろいろと続き、徐々に各自の得手不得手や、個性がにじみ出る仕組み。なかでも、出てきて頭を下げるだけの単純な所作である「お辞儀」のしかたから、性格や育った文化のバックグラウンド等が、なんとなく窺い知れるのは衝撃的。舞台上の人々の姿を思わず自分に重ね、襟を正す瞬間だった。

ひとりのダンスの振りを、みんな揃って一緒に踊ることを、交替で行うコーナーも印象的だった。たとえば、絶妙なオフビートを刻みながら、豊かな腰を最小限に揺らす老婦人。うんと両足を広げ、低く腰の入ったよさこい踊りを見せる日本人男性。片手での倒立や肩で回転するアクロバティックな技を躊躇なく披露する白人男性。不意に立ち上がったり、しゃがんだり、急に走り出して舞台袖に消えたりする幼い少女etc.……。全員が自力で創ったのであろう約2分間ずつのダンスは、あまりにも赤裸々な、個々の人生の断片だ。その超パーソナルなダンスを、見るからにまるで異なる19名が、見よう見真似で踊るのだ。食らいつくように振りを再現しようとするバレリーナもいれば、億劫そうに手をぶらつかせるだけのドラァグクイーンも、キャッキャッとうれしそうに跳ね回るばかりの子どももいて、当然ユニゾンになどならない。同じことをしようとするほど違いが目立つことに気づき、不自由さを感じながらも、ちょっと他者を追体験することを楽しみ、結果、自分らしくいられることの自由を再確認する――。そんな過程を舞台上で享受し、開放されてゆく人たちを目の当たりにしているうちに、じわじわと幸福感が押し寄せてきて、最後は涙が止まらなくなった。いま世界中で危機に曝されている「多様性」が、ここではキラキラと輝き、リアルに息づいている。『ザ・ショー・マスト〜』では理解できなかったジェローム・ベルの思考に、少しく歩み寄れたような気さえしてきた。

ナンテールの客席を興奮に包んだ後も、『Gala』は世界中で、その都市に住むキャストによって上演され、「みんなちがって、みんないい」ことを、観客の目に焼き付けているようだ。そしていよいよ、日本ではさいたま版が登場する。バレエからストリート、日本舞踊までダンス人口は多様だし、彩の国さいたま芸術劇場はさいたまゴールド・シアターのように、プロではなかった人々が活躍する実績があって、その魅力をよく知る観客も多い。きっとどの街にも引けを取らない、強烈なさいたま版『Gala』が誕生するに違いない。

ケイト・リウ

“ショパンの国”が認めた
若きピアニストと分かち合う音楽

2015年ショパン国際ピアノ・コンクールに第3位入賞し、人気急上昇中のピアニスト、
ケイト・リウが「ピアノ・エトワール・シリーズ」に登場！
しなやかでつややかな音だけでなく、うっとりと陶酔する演奏姿でも魅了するリウは、
現在も音楽院で研鑽を積む、伸び盛りの23歳。
ショパンとブラームスで、みずみずしい感性を聴かせてくれる。

Kate Liu

文◉高坂はる香（音楽ライター）

心と魂すべてを込めるマズルカ

2015年のショパン国際ピアノ・コンクール第3位入賞で、一躍クラシック界の注目を集めたケイト・リウ。マズルカ賞を受賞し、さらにポーランド人審査委員勢から高く評価され、いわば“ショパンの国”の人たちからもっとも認められたということでも話題となった。ステージでは、作品の世界に入り込むような表情を浮かべながら、自由でのびやかな音楽を奏でる。独特の純真な空気をまとうピアニストだ。

彼女が今回のプログラムに選んでいるのは、まず多くの方が期待しているであろう、ショパンの作品。なかでも、コンクールで演奏した《マズルカ 作品56》は楽しみだ。マズルカを演奏するうえで大切にしていることを尋ねると、彼女は「すべての心と魂を込めること。半分だけではダメ。全部投入するか、演奏しないか、選択肢はどちらかしかない」と話していた。演奏中の音楽に没入したような表情、作品に寄り添う自然体の雰囲気は、まさにそうして曲に全てを注ぎ込んだ結果現れるものなのだろう。

ピアノ・ソナタについては、コンクールで弾いた第3番ではなく、第2番の「葬送ソナタ」を披露する。

「第3番のソナタは複雑で、理解に時間がかかりました。一方、第2番のソナタには、弾く上で少し違った種類の緊張感があります。伝えるという意味で、よりストレート。とくに有名な第3楽章の葬送行進曲は、深く重くて、何を表しているのかが明らかです。ただ、それに続く第4楽章は、私が知るショパンの作品の中でもっともわかりにくい音楽だと感じます。ハーモニーはロマン派的なものに由来しているけれど、印象主義の姿に近い。不気味で暗く、幽霊のような雰囲気が漂います」

聴き手と直接的にコミュニケーションする力を持つ作品で、ピアニストとしてまた別の一面を見せたいと意気込む。

ブラームスは
とても近いと感じる作曲家

ケイト・リウが想いを寄せる作品や作曲家について語る表情は、本当に幸せそうだ。

今回は、ショパンに加えてブラームスの《4つのバラード》を演奏する。ショパン・プログラムの中に1作品加えるのがブラームスだということにどんな思いがあるのかを尋ねると、まるで恋する乙女のようにうっとりした表情で、作品について話してくれた。

「ブラームスは、自分にとても近いと感じる作曲家です。この曲を勉強しようと思ったのは、大好きなピアニスト、ギレリスのモスクワ・リサイタルの録音を聴いたことがきっかけ。これはブラームスが若き日の、ある意味まだ自分の音楽のあり方に完全な確信を持たない時期の作品ですが、ギレリスが演奏すると、まるで円熟期の作品のように思えるのです。聴いた瞬間に心を奪われて、私ならこの作品で何が表現したいかというアイデアが浮かび、もっと知りたいと思いました。今回はこの曲をプログラムに入れることができて、本当に嬉しいのです！」

また、彼女の演奏の大きな魅力として挙げたいのは、細身の体から繰り出される光沢のあるつややかな音。そんな良く通る音を鳴らす方法を、時間をかけて探してきたという。

「模索をはじめたきっかけは、ソコロフの録音を聴いたことです。彼の演奏からは個性と魂が感じられ、伝える力の強さに驚きました。それ以降、私も自分の音に個性を持たせることを意識し、練習室で“実験”を始めたのです。カーティス音楽院での5年間ではロバート・マクドナルド先生のもと、体をリラックスさせて音を出す方法、欲しい音の見つけ方を学びました」

自分の中には
分かち合うべきものがある

そのカーティス音楽院も今年5月に卒業し、9月からはニューヨークのジュリアード音楽院に入学。マクドナルド教授に加え、名教師として知られるヨヘヴェド・カプリンスキー教授にも師事し、さらなる研鑽を積む。

ショパン国際ピアノ・コンクールでの入賞が“青信号”のサインとなって、このまま前進することへの確信が得られたとケイト・リウは話す。

「偉大な音楽家がたくさん存在する中、自分がピアノを弾く意味はなんなのかを考え続けていました。そこでコンクールが良いきっかけとなり、自分が音楽を通して伝えたいことは、他の人にとっても意味があるのかもしれない、自分の中には分かち合うべきものがあるのだと確信できるようになったのです。でもまだ探らなくてはいけないことはたくさんあります。これからも模索し続けたいです」

愛情を寄せる作品の中に発見したものを分かち合いたい。そんなまっすぐな想いを受け取るリサイタルとなりそうだ。

ケイト・リウ（ピアノ）
Kate Liu

1994年シンガポール生まれ。2015年、第17回ショパン国際ピアノ・コンクール第3位及びマズルカ賞受賞。モントリオール国際音楽コンクール、ニューヨーク国際ピアノ・コンクールなど、数多くのコンクールで入賞している。アメリカのショパン財団からは2011年と2012年の2度にわたって奨学金を授与され、これまでにニューヨーク、ワシントンでリサイタルを行っている。シカゴ・シンフォニー・センターでは、ラン・ランとの共演でシューベルトの《幻想曲 ヘ短調》を連弾した。共演したオーケストラとしては、モントリオール、クリーヴランドなどのオーケストラがある。

チケット発売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.32
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル

11.11（土）開演15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

［曲目］ショパン：マズルカ 作品56
ブラームス：4つのバラード 作品10
ショパン：ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品35
ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22

チケット（税込）一般 正面席3,500円　メンバーズ 正面席3,200円

※残席僅少　※バルコニー席・U-25は予定枚数終了。

Photo©Marco Borggreve

ニューヨーク、ウィーン、アムステルダム――

世界が今一番求めているヴァイオリニスト

レオニダス・カヴァコス

Leonidas Kavakos

世界のトップ・オーケストラとの共演、名門ホールでのリサイタルに耳の肥えた聴衆がこぞって出かける、
現代最高のヴァイオリニストのひとり、レオニダス・カヴァコスがやってくる！
音楽に全身全霊を捧げ奏でる深い響きを、604席のホールで聴くリサイタル。
彩の国さいたま芸術劇場ならではの、濃密な音の対話を体験せよ！

文◉後藤菜穂子（音楽ライター）

レオニダス・カヴァコス（ヴァイオリン）
Leonidas Kavakos

1967年アテネ生まれ。ギリシャ音楽院やアメリカのインディアナ大学で学ぶ。1985年にシベリウス国際コンクールで優勝、これが彼の名声を世界に広めることとなった。すべての主要音楽都市でリサイタルを行うほか、数多くの名指揮者や超一流オーケストラと共演し、シャイー指揮ゲヴァントハウス管とのブラームスの協奏曲、バーチェとのベートーヴェンのVnソナタ全集、ユジャ・ワンとのブラームスのVnソナタ全集などの録音が数多くの国際的な賞を獲得する、現代最高のヴァイオリニストの一人。

「心・技・体」進化を続けるアーティスト

レオニダス・カヴァコスは、年を重ねるごとに着実に深化しているアーティストだと思う。彼のヴァイオリン演奏を聴くたびに感じるのは「心・技・体」のバランスが理想的な演奏家だということ。きわめて卓越したテクニックと無理のない美しいフォーム、音楽に対する探究心と謙虚な姿勢、そして心のこもった深みのある表現力。つねに音楽が先にありきで、殊更自分らしさを主張しないところも彼の美点で、好感が持てる。すべて考え抜かれた上での自然体の演奏なのだ。

彼は18歳の時にシベリウス国際ヴァイオリン・コンクールに優勝し、その3年後にもパガニーニ国際コンクールで優勝するなど目を見張る受賞歴を持つが、彼にとってそれはあくまでもきっかけであり通過点であって、その栄光にあぐらをかくようなことはけっしてない。

民俗音楽のヴァイオリン奏者であった父親から楽器の手ほどきを受けたのち、アテネのヴァイオリン教師ステリオス・カファンタリスのもとで才能を開花させ、12歳のときには最年少でEUユース・オーケストラの奏者となった。彼の経歴で興味深いのは、シベリウス・コンクール優勝の翌年から、アメリカのインディアナ大学で名教師ジョーゼフ・ギンゴールドの薫陶を受けたことだ。カヴァコスの気品のある正統的なスタイルの背景には、このイザイの直弟子から受け継いだ要素もあるのだと思う。さらに彼は、自分の家族のルーツでもある民俗音楽にも関心を寄せており、その自然で直感的な表現力はきっとそこからも来るのだろう。

指揮者としても活躍 共演者と作り上げる音楽

カヴァコスは昨シーズン、ニューヨーク・フィルのアーティスト・イン・レジデンスを務め、さらに2017/18年のシーズンにはウィーンの楽友協会およびアムステルダムのコンセルトヘボウのアーティスト・イン・レジデンスに選ばれており、いかに欧米の音楽界において高く尊敬されているかが見て取れる。ニューヨーク・フィルのレジデンシーでは、レーラ・アウエルバッハの新作のヴァイオリン協奏曲を世界初演したほか、ブラームスのヴァイオリン協奏曲の独奏を務め、さらに同フィルへの指揮デビューも果たした。

日本では意外に知られていないのは、カヴァコスの指揮者としての顔だろう。彼はかなり以前から弾き振りに加えて、本格的な指揮活動にも取り組んでおり、2007年から2009年まではザルツブルク・カメラータの芸術監督も務めた。オーケストラを指揮することについてはインタビューで、「指揮者とオーケストラがどのように一体となってすばらしい結果を生み出すことができるかという心理的な謎に惹かれる」と語っている。さらに、「独奏者としてはつねに一人なので、演奏やその他のことについても自分一人で悩むことが多いけれど、たくさんの人々とともに音楽をすることで人間としてもアーティストとしてもより多くのものを得られる」とも述べている。このようにカヴァコスはけっして孤高のアーティストではなく、他の音楽家と交流しながら音楽を創り上げていくタイプの音楽家であることがわかる。

Photo©R.S

2017/2018シーズンのホールの“顔”としてカヴァコスの写真を掲げるアムステルダムのコンセルトヘボウ。

筆者が最近彼の演奏を聴いたのは協奏曲のソリストとしての演奏が多いのだが（ここ一年でもゲルギエフ／PMFオーケストラとのブラームス、V.ユロフスキ／ロンドン・フィルとのシベリウス、P.ヤルヴィ／フィルハーモニア管とのブラームスの協奏曲を聴いている）、それらの公演でも自分の解釈を一方的に主張するのではなく、共演の指揮者とオーケストラに寄り添って一緒に音楽を創り上げようという柔軟な姿勢を感じた。

ストラディヴァリウスが奏でるピアノとの対話

今回のリサイタルのパートナーは、イタリア人ピアニストのエンリコ・パーチェ（パーチェは最近ではヴァイオリニストの諏訪内晶子とのコンビでもおなじみかもしれない）。同い年のパーチェとは長年デュオを組んできており、対等な立場でお互いに高め合う関係だ。とりわけ数年前より世界各地で行ってきたベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲シリーズは高い評価を得てきた。2013年にリリースされた彼らのベートーヴェン・ソナタ全集（Decca）についてニューヨーク・タイムズ紙は「カヴァコスの比類のないエレガントで美しい音色だけでもこの全集を聴く価値がある理由であるが、彼と卓越したピアニストのパーチェの音楽を掘り下げていく姿勢こそがこの体験をスリリングなものにしてくれる」と絶賛した。二人は今回のリサイタルでは、そのうちト長調の最後のソナタを取り上げる。そのほかヤナーチェクのヴァイオリン・ソナタにおいてもシューベルトの華麗な幻想曲においても、二人は対話を交わし、ときには議論をし、そしてときには軽やかに戯れるだろう。

なおカヴァコスはつい最近楽器を変えて、6月よりストラディヴァリウスの“Willemotte”（1734年製）を使用している。今までの楽器以上に深みと色彩感のある音ということで、この名器での演奏にも期待したい。

Photo©Marco Borggreve

エンリコ・パーチェ（ピアノ）
Enrico Pace

イタリア生まれ。1989年にリスト国際コンクールに優勝して国際的なキャリアをスタート。ヴァイオリンのカヴァコスとはニューヨークやミラノ、ザルツブルク音楽祭などでベートーヴェンのVnソナタ全曲演奏を行うなど共演を重ね、ほかにもF.P.ツィンマーマンや諏訪内晶子らとパートナーを組み、世界中の著名ホールや音楽祭で広く演奏活動を行っている。ソリストとしてもロンドン響やエーテボリ響、フィレンツェ五月音楽祭管などと共演し、レコーディングも行っている。

チケット発売中

レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル

11.19（日）開演15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

［出演］レオニダス・カヴァコス（ヴァイオリン）、エンリコ・パーチェ（ピアノ）
［曲目］ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ
シューベルト：ヴァイオリンとピアノのための幻想曲 ハ長調 D 934
メシアン：主題と変奏
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96

チケット（税込）一般 正面席7,000円　バルコニー席6,000円
U-25*（バルコニー席対象）3,000円／メンバーズ 正面席6,300円
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

「次代へ伝えたい名曲」第12回

工藤重典 Interview

音楽には、もっと追求しがいのある奥深さがある

日本を代表する名音楽家が、これまでの音楽人生を振り返り、
「次の世代へ受け継ぎたい名曲」を選曲して演奏するシリーズ「次代へ伝えたい名曲」。
第12回は、世界的なフルート奏者、工藤重典が登場する。
演奏家として活躍するだけでなく、数多くの後進を育ててきた工藤が今改めて思うこと、
それは演奏家の音楽性だという。
大作が並ぶプログラムに込めた思いを語っていただいた。

取材・文◉オヤマダアツシ（音楽ライター）　Photo◉田中亜紀（工藤）

工藤重典（フルート）
Shigenori Kudo

札幌生まれ。1979年パリ国立高等音楽院を一等賞で卒業。これまでに協奏曲やリサイタル、マスタークラスを40ヶ国、180以上の都市で開催している。20年以上にわたり小澤征爾指揮／サイトウ・キネン・オーケストラの首席フルート奏者を務め、パリ・エコール・ノルマル、東京音楽大学、エリザベート音楽大学、大阪音楽大学にて後進の指導にもあたっている。水戸室内管弦楽団首席奏者。

ヴァイオリン・ソナタをフルートで演奏することの意味

「このホールで演奏させていただくのは初めてかなと思いましたら、オープニングの年（1994年）にコンサートをしていました。当時はまだパリに住んでいて、日本に帰ってくると集中的にコンサートをしていた時期です。今回はそれ以来、20数年ぶりかと思うと感慨深いですし、そうしたタイミングで思い切ったプログラムができることはありがたいですね」

まぎれもなく日本のトップ・フルート奏者であり、数多くのコンサートやレコーディングで多くのフルート愛好家や聴き手に存在感を示してきた工藤重典。その幅広いレパートリーから「次代へ伝えたい名曲」のために選ばれた３曲は、やや意外なラインナップだ。

「ベートーヴェンのソナタ（ト長調、作品30-3）はヴァイオリン・ソナタ第８番が原曲ですし、フランクも同じく原曲はヴァイオリン・ソナタですから、どうしてわざわざフルートで演奏するの？と思う方もいらっしゃるでしょう。確かにフルートのためのオリジナル曲ではありませんし、華麗な演奏テクニックを披露する人気作品というわけでもありません。しかしこの２曲は内容が深く、演奏者の音楽性が試される曲でもあるのです。フルートの世界もコンクールが重要視され、素晴らしいキャリアへの登竜門になっていますけれど、そうした場では難易度が高い曲を演奏し、本番ではミスをしない人が優秀な成績をおさめることになります。ただ個人的には、音楽にはもっと追求しがいのある奥深さがあるということも若い世代には伝えたいですし、聴き手の皆さんにもフルートでこういった深みのある演奏ができるのですよ、ということをアピールしたいのです」

ベートーヴェンのソナタは有名な《春》と同じく、30代初頭に書かれており、同時代の優れたフルート奏者だったルイ・フィリップ・ドゥルーエがフルートの音域に合わせて編曲。フランクのソナタは、工藤の恩師であるジャン＝ピエール・ランパルらも演奏してきた名曲だ。

「フランクは、初めて聴くという方でもメロディの美しさに魅力を感じていただけると思います。ベートーヴェンの曲もフルートらしさが出せる作品で、発表されてからあまり時間がたっていない時代にフルートでも吹かれていたということは、もっと知られていいでしょう。ドゥルーエは優れた楽器製作者でもあり、フルートを知り尽くしていましたから、最初からこの楽器のために書かれたと言えるくらいのクオリティです。ベーム式と呼ばれる革新的なキーシステムを開発した、フルート奏者のテオバルト・ベームなども同時代に活躍しており、フルートという楽器が大きな発展を遂げていた時代のエネルギーを、音楽の中に感じます」

《ペイザージュ》は自分こそ演奏し続けなければならない

もう１曲の、ジャン＝ミッシェル・ダマーズによる《ペイザージュ》（景色、風景）は、工藤のために書かれた９つの小品集だ。多くのフルート作品（室内楽など）を残し、工藤とは近所付き合いだったというダマーズだが、パリ国立高等音楽院の副院長やエコール・ノルマル音楽院の教授を歴任するなど、パリ楽壇では知らない者がいないほど。20～21世紀を生きた作曲家だが、その作風はプーランクに代表されるフランス流モダニズムを継承した親しみやすいものだ。

「モーツァルトの再来と言われたくらいピアノもお上手で、ソニーへこの曲を録音した際にもピアノを弾いていただきました。親しみやすいシャンソン風のメロディやマーチのリズムなど、非常に多彩な音楽が詰まっている素晴らしい曲です。演奏の難易度がやや高く、変拍子も多いため、他の作品に比べると演奏される機会が少ないのですけれど、こうした曲こそ自分が演奏し続けないといけませんから」

今回のピアニストである長崎麻里香は工藤との共演も多く、名手が揃ったクドウ・シゲノリ・ウインド・アンサンブルによるプーランクの六重奏曲など（CD）でも、颯爽とした演奏を聴かせている注目の演奏家だ。

「高校生の頃からパリで学んでおり、演奏テクニックと音楽センスを持ち合わせていますから、本当に素晴らしいパートナーです。出産をされてから演奏活動を少しだけお休みしていましたが、その経験から新しい感性が生まれているのではないかと期待していますし、こちらも刺激を受けて新鮮な演奏ができると楽しみにしています」

コンサートの前日には音楽ホールで公開レッスンも予定されており、フルートを演奏する方（アンサンブルも含む）にとっては千載一遇のチャンス。もちろん聴衆として参加もできるので（要事前申込、詳細はP.23）、トップ奏者の音楽性を垣間見ることもできるだろう。

長崎麻里香（ピアノ）
Marika Nagasaki

パリ・エコール・ノルマル音楽院、ピアノ科コンサーティストディプロマ取得、研究課程修了。室内楽科高等演奏家ディプロマ取得。パリ国立高等音楽院ピアノ科を満場一致の最優秀の成績で卒業。F・プーランク国際ピアノ・コンクール（1999年）にてプーランク作品優秀賞、フランス、サン・ノム・ラ・ブルテッシュ国際ピアノ・コンクール（2000年）にて最年少優秀賞を受賞。ソロのみならず、室内楽奏者、伴奏者としても幅広く活動し、共演者からも厚い信頼を得ている。

チケット発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 フルート・リサイタル
12.17（日）開演15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
［出演］工藤重典（フルート）、長崎麻里香（ピアノ）
［曲目］ベートーヴェン（ドゥルーエ編曲）：ソナタ長調 作品30-3
ダマーズ：ペイザージュ～フルートとピアノのための９つの小品
フランク：フルート・ソナタ イ長調
チケット（税込）一般 正面席4,000円　バルコニー席3,000円
U-25*（バルコニー席対象）1,500円／メンバーズ 正面席3,600円
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※12月16日（土）「フルート公開レッスン」開催（要事前申込） ☞ 詳細はP.23

Review

レビュー

RAKUGO

彩の国さいたま寄席　四季彩亭
彩の国落語大賞受賞者の会　三遊亭萬橘

7.1(土)　彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

平成28年度彩の国落語大賞を受賞した三遊亭萬橘の会。ゲストに笑点でもおなじみの三遊亭小遊三を迎え、華やかかつ、賑やかな口演が繰り広げられた。この日の主役、萬橘による仲入り前の一席は、飄々とした中にもテンポを生かし、ひたすら楽しい『寄合酒』。そして「待ってました！」のトリネタは大爆笑の『井戸の茶碗』！　いわゆる“いい話”になりがちなネタを、全編に工夫をこらして笑いだらけの一席に仕立て、受賞者らしい力量と個性を見せつけた。小遊三はおめでたいネタ『鮑のし』で受賞に花を添え、立川幸之進はリズミカルな『蔵前駕籠』で会場をあたためた。開口一番の三遊亭まん坊は『手紙無筆』。

Photo◎加藤英弘

PLAY

マームとジプシー
『10th Anniversary Tour』

7.7(金)~30(日)　彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

躍進を続けるマームとジプシー結成10周年を記念した全国ツアーが埼玉でスタート。“動物・人体”をテーマにした3作を並べ、1つに再編集した『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ』、藤田貴大が岸田戯曲賞を受賞した『帰りの合図、』『待ってた食卓、』が軸の『ΛΛΛ かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと――――――』、“夜・不在”をモチーフにした『夜、さよなら 夜が明けないまま、朝 Kと真夜中のほとりで』、30代の女性をテーマに描いた『あっこのはなし』といった4演目を一挙に連続上演した。集団としての力を示し、今後10年への継続を宣言するような公演。意欲的な企画を成し遂げた。

Photo◎井上佐由紀

『ΛΛΛ かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと――――――』

PLAY

蜷川幸雄一周忌追悼公演
『NINAGAWA・マクベス』

7.13(木)~29(土)　彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

1980年初演、舞台を安土桃山時代に置き換えた〈仏壇マクベス〉で演出家・蜷川幸雄の名前を世界に知らしめた『NINAGAWA・マクベス』。一昨年、17年ぶりに上演され、現代の観客にその大胆で壮大なスケール感を見せつけたのは記憶に新しい。それが今回、追悼公演として復活。埼玉のみならず香港でも上演され、イギリス、シンガポールでもよみがえる。観客の度肝を抜くダイナミックな舞台、舞い散る桜、豪華絢爛な衣裳、女方で演じられる怪し気な魔女たち、渦巻く陰謀、悲劇に絡めとられ人生を疾走する人物たち。どの場面も濃厚なドラマに彩られ、しばし舞台上に演出家が命を吹き返したように感じられた。

Photo◎Piet Defossez

PLAY

藤田貴大ワークショップ公演Vol.2
『ハロースクール、バイバイ』

7.27(木)~30(日)　NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

マームとジプシーの藤田貴大が、埼玉県内在住・在学の中学生以上20歳以下の12名の出演者と3カ月間の稽古を重ねて創作した『ハロースクール、バイバイ』。中学校の女子バレーボール部、活動最後の試合をいくつもの思い出と駆け巡りながら映し出される青春群像劇を、若い出演者たちが身体を思いきり使って夢中になって紡いでいく様子は、舞台全体が脈打つよう。試合の場面では実際にはないボールが見えてくるようで、演劇ならではの魔法と熱狂が混じり合った。若い出演者たちが、未熟さ、拙さも〈熱量〉によって魅力に変化させていく集中力を発揮し、カーテンコールでの彼らは、芝居の冒頭よりも成長しているように感じられた。

Photo◎宮川舞子

MUSIC

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド!

7.29(土)　埼玉会館 大ホール

2年ぶりの開催となった、飯森範親（指揮）、朝岡聡（ナビゲーター）、東京交響楽団による「夏休みオーケストランド！」にたくさんの子どもたちが帰ってきた。《眠れる森の美女》の〈ワルツ〉が始まると「この曲、知ってる！」と楽しそうに反応する子どもたち。楽器紹介の後は、さいたま市の中学3年生のソリスト西本裕矢君の堂々たる演奏に聴き入り、ユニークなトークにも大いに沸いた。人気コーナー「指揮者にチャレンジ！」では3人の子の健闘ぶりに客席から大きな拍手が。恒例「みんなで歌おう＆演奏しよう！」では大勢の子どもたちが舞台に上がり東響と共演。最後は組曲《道化師》の迫力ある音を浴びて“オーケストラの国”を楽しんだ。

Photo◎加藤英弘

PLAY

バンクパペッツ
『Mr.バンクの魔法のガラクタ～石・棒・折れた骨
Sticks Stones Broken Bones』

8.3(木)・4(金)　彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

オーストラリアを拠点とし、世界中で公演を行っている「バンクパペッツ」による影絵人形劇（シャドーパペット）。出演者はたった一人、舞台に散らばる身の回りにあるようなガラクタばかりを組み合わせてスクリーンに投影するとさまざまな形が浮かび上がってくるという仕掛け！　モノだけではなく、出演者の身体も影絵の一部となり、観客とも共演。劇場内の全部を使い、豊かでユーモラスな世界が表現された。フィナーレでは「いくつになっても、遊ぶ時間はたくさんあります」というメッセージを贈った。それはまるで、会場にいる子どもたちに手渡された、人生のおみやげのようだった。

Photo◎宮川舞子

Event Calendar イベントカレンダー 9.15 - 11.30

PLAY DANCE MUSIC EVENT CINEMA

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場

お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

9.21(木)–10.1(日)
さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』
彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター（大ホール内）

9.21（木）	18:00	27（水）	14:00
22（金）	18:00	28（木）	14:00
23（土・祝）	14:00	29（金）	18:00
24（日）	14:00	30（土）	14:00
25（月）	休演	10.1（日）	14:00
26（火）	14:00		

☞ 詳細はP.21

10.17(火)–22(日)
マームとジプシー
『IL MIO TEMPO―わたしの時間―』
彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO（大稽古場）

10.17（火）	19:30	20（金）	14:00
18（水）	19:30	21（土）	19:30
19（木）	19:30	22（日）	14:00

☞ 詳細はP.7

10.28(土)
彩の国さいたま寄席 四季彩亭
立川志らくと精鋭若手落語会
小ホール 開演14:00 ☞ 詳細はP.21

DANCE

10.21(土)
第6回近藤良平と障害者によるダンス公演
『どうするの　あしたのよていが　きになるの』
小ホール 開演15:00 ☞ 詳細はP.21

10.28(土) 29(日)
バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK―ラスト・ワーク』
大ホール 28（土）・29（日）開演15:00 ☞ 詳細はP.8-9

MUSIC

9.16(土)
彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第11回
吉野直子 ハープ・リサイタル
音楽ホール 開演14:00 ☞ 詳細はP.22

9.22(金)
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ランチタイム・コンサート第32回
ウェールズ弦楽四重奏団
埼玉会館 大ホール 開演12:10（終了予定13:00） ☞ 詳細はP.22

9.30(土)
アンサンブル・ウィーン=ベルリン
音楽ホール 開演15:00 ☞ 詳細はP.22

10.7(土)
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
NHK交響楽団
リオ・クオクマン（指揮） 小曽根 真（ピアノ）
埼玉会館 大ホール 開演16:00 ☞ 詳細はP.22

10.21(土)
光の庭プロムナード・コンサート第95回
2台のオルガンで楽しむブルグミュラーの世界
情報プラザ 開演14:00 ※入場無料
［出演］大木麻理（オルガン）、亀井 優（オルガン）
［曲目］ブルグミュラー：2台ピアノのための25の練習曲より
即興演奏

11.11(土)
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.32
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル
音楽ホール 開演15:00 ☞ 詳細はP.12-13

11.19(日)
レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル
音楽ホール 開演15:00 ☞ 詳細はP.14-15

EVENT

9.21(木)–24(日)
《世界ゴールド祭》キックオフ!
小ホール
［参加料］無料（レセプション参加費2,000円）
※要事前申込（詳細は財団HP・チラシ等をご参照ください。）

［プログラム］

DAY1 シンポジウム
9.21（木）
13:00～15:00　事例1｜サドラーズ・ウェルズ劇場（英国）
15:15～17:15　事例2｜彩の国さいたま芸術劇場

DAY2 シンポジウム&ワークショップ
9.22（金）
12:00～14:00　事例3｜エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場（英国）
14:15～15:15　ワークショップ｜カンパニー・オブ・エルダーズ ダンス・ワークショップ
体験セッション〈定員〉30名
15:30～17:30　ラウンド・トーク｜
高齢社会に輝きをもたらす、これからの劇場の在り方を考える
18:00～20:00　レセプション

DAY3&4 60歳以上の男女のためのダンス・ワークショップ
〈対象〉60歳以上限定・ダンス経験不要　〈定員〉各回20名
9.23（土・祝）10:30～12:30 & 14:00～16:00
9.24（日）10:30～12:30

●…彩の国さいたま芸術劇場 休館日　●…埼玉会館 休館日

9

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
【全席自由・各回入替制・整理券制】
大人1,000円／学生500円［入場時に学生証をご提示ください］
※料金は当日現金支払いのみ

9.21(木)～24(日) 映像ホール

『人生フルーツ』（2016年／日本／91分）
［監督］伏原健之　［出演］津端修一、津端英子 ほか
［ナレーション］樹木希林
21（木）～23（土）10:30／14:00／18:00
24（日）10:30／14:00　※23（土）10:30音声ガイドあり

© 東海テレビ放送

10.5(木)・6(金) 埼玉会館小ホール

埼玉が生んだ女優 三宅邦子～小津安二郎監督作品選～
『お早よう』（1959年／日本／94分）
［監督］小津安二郎　［出演］佐田啓二、久我美子、笠 智衆 ほか
5（木）・6（金）10:30／14:00

©1959 松竹株式会社

10.12(木)～15(日) 映像ホール

『未来よ こんにちは』（2016年／フランス・ドイツ／102分）
［監督・脚本］ミア・ハンセン＝ラブ
［出演］イザベル・ユペール、アンドレ・マルコン、ロマン・コリンカ ほか
12（木）～14（土）10:30／14:00／18:00
15（日）10:30／14:00

©2016 CG Cinéma · Arte France Cinéma · DetailFilm · Rhône-Alpes Cinéma

11.8(水)～12(日) 映像ホール

『ぼくと魔法の言葉たち』（2016年／アメリカ／91分）
［監督］ロジャー・ロス・ウィリアムズ
［出演］オーウェン・サスカインド、ロン・サスカインド、
コーネリア・サスカインド、ウォルト・サスカインド
8（水）～11（土）10:30／14:00／18:00
12（日）10:30／14:00

©2016 A&E Television Networks, LLC. All Rights Reserved.

Tickets チケット

PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場

＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

発売中

さいたまゴールド・シアター第7回公演
『薄い桃色のかたまり』
9.21（木）～10.1（日）
彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター（大ホール内）
［作・演出］岩松 了
［出演］さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター
チケット（税込）全席自由（整理番号付）
一般4,000円　メンバーズ3,600円
☞ 各日開演時間はP.20

発売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
立川志らく精鋭若手落語会
10.28（土）14:00 小ホール
［出演］立川志らく（ゲスト）、
立川こしら、立川志ら乃、古今亭駒次
チケット（税込）全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）2,000円
メンバーズ2,700円

発売日　一般・メンバーズ 9.24（日）

マームとジプシー
『IL MIO TEMPO―わたしの時間―』
☞ 詳細はP.7

発売日　一般 10.14（土）　メンバーズ 10.9（月・祝）
※メンバーズプレオーダー（抽選）があります。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』
☞ 詳細はP.3-5

発売日　一般 10.28（土）　メンバーズ 10.21（土）

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手落語会
2018年1.27（土）15:00 小ホール
［出演］林家たい平（ゲスト） ほか
チケット（税込）全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）2,000円
メンバーズ2,700円

発売日　一般 11.18（土）　メンバーズ 11.3（金・祝）

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』
☞ 詳細はP.6

DANCE

発売中

第6回近藤良平と障害者によるダンス公演
『どうするの　あしたのよていが　きになるの』
10.21（土）15:00 小ホール
［構成・振付］近藤良平
［出演］ハンドルズ、近藤良平、山本光二郎、ぎたろー
淑徳与野中学校バトン部、武井 誠
チケット（税込）全席指定
一般2,000円　障がい者割引（介助者を含む）1,000円
［主催］埼玉県　［共催］公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、
埼玉県障害者交流センター（社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団）
［後援］さいたま市

発売中

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『LAST WORK―ラスト・ワーク』
☞ 詳細はP.8-9

発売中

川口隆夫
『大野一雄について』
12.2（土）・3（日）15:00 小ホール
［出演］川口隆夫
チケット（税込）全席自由
一般 前売3,000円　当日3,500円
U-25＊ 前売2,500円　当日3,000円
［主催］NPO法人ダンスアーカイヴ構想
［共催］公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団／有限会社かんた
※ほか、関連プログラムあり

発売日　一般 10.27（金）　メンバーズ 10.21（土）

平山素子（ダンス）×加藤訓子（パーカッション）
『DOPE』
2018年2.2（金）19:30、3（土）・4（日）14:00 小ホール
［演出・振付・ダンス］平山素子
［音楽監督・パーカッション］加藤訓子
［音楽］スティーヴ・ライヒ：ドラミング
チケット（税込）全席指定 一般 前売4,500円 当日5,000円
メンバーズ 前売4,200円　当日5,000円 ほか
［主催］NPO alfalfa　［共催］公益財団法人埼玉県芸術文
化振興財団、愛知県芸術劇場、kuniko kato arts project

発売日　一般 10.28（土）　メンバーズ 10.21（土）

ジェローム・ベル
『Gala―ガラ』
☞ 詳細はP.10-11

発売日　一般 11.4（土）　メンバーズ 10.28（土）

Noism1
『NINA―物質化する生け贄』
2018年2.17（土）17:00、18（日）15:00 大ホール
［演出振付］金森 穣　［出演］Noism1
チケット（税込）全席指定 一般5,500円
U-25＊（枚数制限あり）3,500円
［主催］公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
［共催］公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

MUSIC

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第11回
吉野直子 ハープ・リサイタル
9.16(土)14:00 音楽ホール
［出演］吉野直子(ハープ)
［曲目］
J. S. バッハ(オーウェンズ／吉野直子編曲):シャコンヌ
ブラームス:間奏曲 イ長調 作品118-2
フォーレ:塔の中の王妃 作品110
クシェネク:ハープのためのソナタ 作品150
武満 徹:スタンザII ～ハープとテープのための～
吉松 隆:ライラ小景(2006)
ルニエ:ピエス・サンフォニック
チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円
メンバーズ 正面席3,600円

発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館ランチタイム・コンサート第32回
ウェールズ弦楽四重奏団
9.22(金)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
［出演］崎谷直人／三原久遠(ヴァイオラ)、
横溝耕一(ヴィオラ)、富岡廉太郎(チェロ)
［曲目］ハイドン:弦楽四重奏曲 第41番 ト長調 作品33-5
シューベルト:弦楽四重奏曲 第14番 ニ短調「死と乙女」
D 810より 第1、2、4楽章
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売中 ※残席僅少

アンサンブル・ウィーン=ベルリン
9.30(土)15:00 音楽ホール
［出演］カール=ハインツ・シュッツ(フルート)、
ジョナサン・ケリー(オーボエ)、
アンドレアス・オッテンザマー(クラリネット)、
リヒャルト・ガラー(ファゴット)、シュテファン・ドール(ホルン)
［曲目］ツェムリンスキー:ユモレスク
バルトーク:ルーマニア民俗舞曲 BB 68, Sz. 56
ヒンデミット:小室内音楽 作品24-2
リゲティ:6つのバガテル
ドビュッシー:子供の領分
フランセ:木管五重奏曲 第1番
ベリオ:オーバス・ナンバー・ズー (作品番号歿番)
チケット(税込) 一般 5,000円
U-25*(バルコニー席対象)2,500円 メンバーズ 4,500円

発売中

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業
埼玉会館NHK交響楽団
リオ・クオクマン(指揮) **小曽根 真**(ピアノ)
10.7(土)16:00 埼玉会館 大ホール
［曲目］グリンカ:歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲
プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 作品26
ドヴォルジャーク:交響曲第8番ト長調 作品88
チケット(税込)
一般 S席6,500円 A席5,500円 B席4,500円
U-25*(B席対象)2,000円
メンバーズ S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.32
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル
☞ 詳細はP.12-13

発売中

レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル
☞ 詳細はP.14-15

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 フルート・リサイタル
☞ 詳細はP.16-17

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.33
パヴェル・コレスニコフ ピアノ・リサイタル
2018年 1.27(土)15:00 音楽ホール
［曲目］シューマン:ヴィーンの謝肉祭の道化
シューベルト:ソナタ イ短調 D 537
ショパン:幻想曲 ヘ短調 作品49 ほか
チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円
メンバーズ 正面席3,200円

発売日 一般 9.17(日) メンバーズ 9.16(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回
ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団
2018年 1.11(木)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
［曲目］宮城道雄:春の海
フランス音楽メドレー ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 10.7(土) メンバーズ 9.30(土)

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル
2018年 3.21(水・祝)15:00 音楽ホール
［曲目］J. S. バッハ:フランス組曲 第6番 ホ長調 BWV 817
シューベルト:即興曲集 D 935(作品142)
モーツァルト:ロンド イ短調 KV 511
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 作品111
チケット(税込)
一般 正面席10,000円 バルコニー席8,000円
U-25*(バルコニー席対象)4,000円
メンバーズ 正面席9,000円

TICKET

インターネット

SAF 埼玉県芸術文化振興財団 **オンラインチケット**
SAFオンラインチケットで、発売初日10:00から公演前日23:59まで受付いたします。

【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一　般 【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】▶ コンビニ発券
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939
10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一　般 【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】▶ コンビニ発券
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後に宅配便での配送も承りますが、チケット代のほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます。※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】
一　般 【現金】または【クレジットカード決済】
▶ その場でチケットをお渡しします。
※手数料はかかりません。

INFORMATION

【受講生・聴講生募集】
次代へ伝えたい名曲 第12回 「工藤重典 フルート・リサイタル」公演関連企画 『フルート公開レッスン』開催!

Photo◎堀田力丸

彩の国さいたま芸術劇場の好評シリーズ「次代へ伝えたい名曲」第12回に出演する工藤重典。コンサートと関連して、公演の前日に『フルート公開レッスン』の開催が決定しました! 受講または聴講が可能です。ぜひご参加ください。

【日時】12月16日(土)15:00～17:00(予定)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

▶**受講を希望の方**(レッスンを受けたい方)
【受講料】10,000円(12/17「工藤重典フルート・リサイタル」チケット1枚付)
【募集内容】フルート・ソロまたはアンサンブル
【応募資格】フルート経験が2年程度以上の方で、現在もフルートを勉強中の方。
【申込方法】財団HPよりダウンロードした受講申込書(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館でも配布中)に必要事項をご記入のうえ、下記宛先までお申し込みください。
【締切】10月20日(金)必着

▶**聴講を希望の方**(レッスンを聴きたい方)
【聴講料】1,000円 ※当日支払い ※12/17「工藤重典フルート・リサイタル」チケットをお持ちの方は無料 ※未就学児入場不可
【申込方法】
往復はがき(往信面に記入)、またはメールに下記事項をご記入の上、お送りください。
①氏名(ふりがな) ②郵便番号、住所 ③電話番号またはメールアドレス ④12/17チケット購入者は座席番号 ※1週間以内に当方からの返信がない場合には、お手数ですがご一報ください。

【申込先】〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
(公財)埼玉県芸術文化振興財団 事業部 「フルート公開レッスン」係
E-mail. music@saf.or.jp ※件名「フルート聴講申込」
※お申込み方法など詳細は財団HP・チラシ等をご参照ください。
☞ 公演詳細はP.16-17

【観覧募集】
埼玉伝統芸能フェスティバル 小鹿野歌舞伎

県内各地域に受け継がれている特色ある伝統芸能を御紹介します。今年度は、小鹿野町の地芝居「小鹿野歌舞伎」を上演します。どうぞお楽しみに!
(入場無料)

【日時】12月17日(日) 開演13:00
【会場】埼玉会館 大ホール
【演目】小鹿野子ども歌舞伎
「傾城阿波の鳴門どんどろ大師門前之場」
小鹿野歌舞伎保存会
「仮名手本忠臣蔵六段目 勘平腹切之場」

【申込方法】
HP、メール、はがき、FAXで受付。1回のお申込みにつき4名様まで可。①代表者郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号 ②観覧者全員の氏名(ふりがな)・年齢を明記してください。
【応募期間】10月16日(月)～11月15日(水)必着
【定員】1,300人(自由席) ※11月22日(水)までに当選されたグループの代表者の方に入場整理券をお送りします(応募者多数の場合は抽選)。
【申込先】〒330-9301
埼玉県文化振興課「伝統芸能フェスティバル」係
FAX. 048-830-4752 E-mail. a2875-01@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/a0305/29dentou.html
［主催］埼玉県 ［共催］公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 ［協力］小鹿野町教育委員会
【お問合わせ】☎048-830-2879(平日8:30～17:15)

傾城阿波の鳴門どんどろ大師門前之場
Photo◎山口清文

【受講者募集】
彩の国シェイクスピア講座 『アテネのタイモン』 徹底勉強会 ※要事前申込

コーディネーター:河合祥一郎

シェイクスピアの作品をさまざまな角度から掘り下げ、新しい魅力を発見する『彩の国シェイクスピア講座』。初回は12月15日に開幕する『アテネのタイモン』を取り上げ、学びつくします! シェイクスピア研究の第一線の講師陣を迎えて贈る全4回の連続講座。是非ご参加ください。

【講義概要】
◎第1回「『アテネのタイモン』のほつれ」
10月28日(土)14:00～16:00［映像ホール］
講師:河合祥一郎(かわい・しょういちろう／東京大学教授)
◎第2回「『アテネのタイモン』翻訳裏話」
11月11日(土)14:00～16:00［大練習室］
講師:松岡和子(まつおか・かずこ)(司会:河合祥一郎)
◎第3回「アテネを占拠せよ～『アテネのタイモン』における政治と経済」
11月25日(土)14:00～16:00［大練習室］
講師:北村紗衣(きたむら・さえ／武蔵大学准教授)
◎第4回「『アテネのタイモン』の登場人物」
12月9日(土)14:00～16:00［大練習室］
講師:安達まみ(あだち・まみ／聖心女子大学教授)
【参加費】無料
【定員】50名(先着順)
【申込方法】
SAFチケットセンター0570-064-939(休館日を除く10:00～19:00)までお電話ください。
※本講座は4回連続の講座となります。4回すべての受講をお願い致します。※定員に満たない場合に限り、1回のみの受講も可能です。ご希望の講座の開講1週間前にSAFチケットセンターまでお問い合わせください。
☞ 公演詳細はP.3-5

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2017.8.25現在／一部未掲載)

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈲香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター／㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十万石ふくさや／森平舞台機構㈱／東芝エルティーエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／㈲齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル／㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国ＳＰグループ／㈲プラネッツ／関東自動車㈱／㈱デサン／セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通／サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／五光印刷㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房／㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台／ (一財)さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／㈱NEWSエンターテインメント／オーガスアリーナ㈱／イープラス／六三四堂印刷㈱／(医)欅会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山﨑整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社／㈱セノン／ショッパー／㈱松尾楽器商会／ JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通／㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／㈲杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／ NTT東日本 埼玉事業部／チャコット㈱／㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくらMusic Office／クワバラ・パンぷキン／駒橋内科医院／東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ピストンリング㈱／金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社)埼玉県経営者協会／㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／㈱和幸楽器／淑徳与野中学・高等学校／新日本ハウス㈱／埼玉栄中学・高等学校／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／ AGS㈱／㈱ジャスト／㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

どっちつかずの天使

VOL.15

画◉磯 良一

いいですよね、別に

文◉岩松 了

その人は田園調布に住んでいた。親もとなのかどうかはわからない。ただ身なりも清楚で口調も穏やか。その地名に何の違和感もなかった。私は知り合って間もない。いや、もちろん仕事上の付き合いだ。

ある日、「打ち合わせを」ということで私の都合に合わせ田園調布とは違う路線の駅の近くのスターバックスで待ち合わせた。急行電車の止まらない駅だったが彼女は間違って急行電車に乗ってしまったとかで、約束の時間に遅れて着いた。私は端っこの小さめの丸いテーブルの席を確保してコーヒーを飲んでいた。白いワンピースを着た彼女が店内の中央あたりまで来てあたりを見まわした。私が彼女の名前を呼ぶと「すいませーん」と言いながら端っこの席に近づいてきた。座るなり「このテーブル、小さくないですか？」と言った。打ち合わせに広げる書類を乗せるには確かに小さいかもなと思った私は「移りますか？」と言って別の席を見まわした。運よく望ましいテーブルの席が一つだけ空いていた。私たちはその席に移動した。よかったよかったとばかりに小さなため息をついて私は彼女が自分のコーヒーを注文するために席をはずし、戻ってくる時間を心の中で準備した。ところが彼女は、早速書類をテーブルに乗せ、私のコーヒーをチラと見ると「いいですよね、別に」と言った。いや、言ったのだった。

とっさのことに私は「あ、ああ……」とうなずいて少しばかり笑ったと思う。

打ち合わせは２時間近く続いた。テーブルの上にはコーヒーが１個だけ。混んでいる店だったから誰も何も注意を払うようなことではなかった。ただ、彼女は何も注文しないまま無事打ち合わせは終わったというだけのことだ。私は心の中で「あるんだ……こういうことが」とつぶやいていた。と同時に、何か慣れぬ食べ物を食べたような妙に嬉しい、このあと初めて会った人にこの味を話さずにはおかないだろうな、という思いに支配されていたことを告白しておこう。

田園調布のお嬢様が！スターバックスで席について何も注文しないまま２時間を過ごした！

どうなんだ、それを目の当たりに出来た私は果報者と言ってもいいんじゃないのか？

いわまつ・りょう
劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。９・10月にさいたまゴールド・シアター『薄い桃色のかたまり』を上演予定。

平成29年9月15日発行（隔月15日発行） 第71号（9月−10月） 発行人：竹内文則 発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500